

地域看護学領域における「卒業研究」の動向

—生活習慣・健康に関する研究から—

金山時恵*

看護学科

(2008年11月12日受理)

9年間の学生の看護研究から、地域看護学領域における地域看護学領域における学生のテーマ、興味・関心などの変化を明らかにし、教育改善の示唆を得ることを目的とし研究を行った結果、1999年から2007年に本学科の看護研究として取り組んだ561件のうち、地域看護学領域に関する研究論文93件であった。研究テーマは2つに分類でき、「生活習慣・健康」と「在宅看護」にはほぼ分類できた。生活習慣・健康に関してみると、6グループに分類でき、「ライフサイクル別に見た生活習慣に関する研究」15件と「健康の捉え方・あり方に関する研究」20件に大別できた。研究対象はすべてのライフサイクルにある人々を対象にしており、調査場所も広範囲にわたっていた。その時代や社会で関心のもたれている内容を取り上げるなど社会背景を反映したテーマに関心をもっていた。そして、看護の対象となる「健康」について関心をもつことは重要なことである。そこから波及するさまざまな要因や影響など、そして時代や社会情勢により関心を高めていく姿勢を持ち続けてほしいと考える。(キーワード) 健康、生活習慣、地域看護

はじめに

学生にとって看護研究を行うことは、研究的手法、論理的思考過程を体験することにより、研究的態度や主体性に学習するという姿勢の育成が、将来看護専門職として、問題解決や看護を学問として追求し続け、さらに自己の疑問を解決するための行動ができるという姿勢につながる。そのため、本学では「看護研究2単位」を必修科目として位置づけている。学生が自分の興味・関心のあるテーマを見つけ担当教員の指導を受けながら、研究的手法全般にわたる過程を学んでいる。

平成9年度改正された看護教育カリキュラムの中で、看護基礎教育の専門科目としてすべての看護職が「地域看護学」を学ぶようになった。本学では、開学当初から地域看護学を位置づけ、研究が行われてきている。平成9年度の看護研究の動向について¹⁾同様に調査されているが、今回は地域看護学領域における看護研究の動向をまとめ、地域看護学領域における学生のテーマ、興味・関心などの変化を明らかにし、教育改善の示唆を得ることを目的とした。

I 研究目的

9年間の学生の看護研究から、地域看護学領域における

研究の動向を分析し、教育改善の示唆を得る。

II 研究方法

1. 研究対象

1999年から2007年に本学科の看護研究として取り組んだ561件のうち、地域看護学領域に関する研究論文93件を分析対象とした。

2. 分析対象

分析対象93件の研究テーマ、研究方法、研究対象をその類似性で分類し経年変化を整理分析した。

3. 倫理的配慮

本学看護学科「看護研究」において論文集として公表された論文を対象とし、個人が特定されないよう著者名は分析対象から削除した。研究をまとめるにあたり、卒業生全員に文書で依頼し同意を得た。

III 結果・考察

1. 研究テーマの分析

表1に示すとおり、研究テーマは2つに分類でき、「生活習慣・健康」と「在宅看護」にはほぼ分類できた。在宅看護には、制度・サービス、ネットワーク、社会背景なども含めている。本研究の生活習慣・健康に関してみる

*連絡先：金山時恵 看護学科 新見公立短期大学 718-8585 新見市西方1263-2

と、6グループに分類でき、「ライフサイクル別に見た生活習慣に関する研究」15件と「健康の捉え方・あり方に関する研究」20件に大別できた(表2)。「ライフサイクル別に見た生活習慣に関する研究」では、生活習慣の実態調査が主であり食事、睡眠、排泄、運動などを調査内容とし小学生・中学生を対象としていた。これらは、昨今の子どもを取り巻く環境において、生活リズムが夜型化し生活習慣が乱れていること、社会のIT化に伴いテレビ・DVDの視聴時間が長いことなど電子メディアへの接触などが問題化していることについて学生の関心が高いといえる。また、高校生を対象とした場合には生活習慣の実態に加えて喫煙に関する調査内容も付加されていた。喫煙に関する内容については、看護学生を対象としていることも多く、将来看護専門職になる学生としての実態を把握し喫煙防止教育などのあり方について考えているものもあった。喫煙に注目したことは、2003年健康増進法による受動喫煙の防止が施行されたことにより、翌年の研究において成人を対象とした調査につながったものと考えることができる。

次に、「健康の捉え方・あり方に関する研究」では、健康意識、健康観、健康への意識の変化、健康管理など健康をどのように捉えているか、健康問題についてどのような保健指導を受け健康管理を行っているのかなど、これから健康のあり方について考えているものであった。ここでも喫煙に関する禁煙行動、禁煙指導についてなど

予防に関する内容のものがあった。地域看護は、健康と生活の関連性を重視し、健康のあらゆるレベルにある、あらゆる年齢にある人々を対象として健康づくりを担う活動である。また、健康や生活は社会の制度や情勢により大きな影響を受けるものである。これらのことから、学生は社会的関心が高いといえる。日常生活を送る中で、必然的に情報として流れる内容に興味関心を抱き、その内容により現状はどのようになっているのかを知り、今後どのような看護を提供することが必要であるのかを考えることはとても重要な視点である。

2. 研究方法と調査内容の分析

表3に示すとおり、研究方法では、アンケート調査が41件(44.0%)と最も多く、次いで面接調査が29件(31.1%)、聞き取り調査が9件(9.7%)であった。

「生活習慣・健康に関する研究」においては、表4に示すように調査研究が28件と最も多かった。調査研究はアンケート調査法と面接調査法によるものであるが、アンケート調査法が80%を占めていた。

研究対象や場所は、さまざまな対象に協力を求めており、本研究では表4に示すように、学生および成人がいずれも9件(25.7%)が最も多く、次いで小学生が8件(22.9%)であった。他には、小児と保護者、中学生・高校生、高齢者がいずれも2件(5.7%)ずつであった。学生では、看護学生を対象に生活習慣をはじめ喫煙の実態、

表1 経年別にみた地域看護学領域における看護研究テーマの動向

	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	合計
全体	2	7	10	14	12	20	8	11	9	93
健康・生活習慣	0	2	3	6	6	7	4	3	4	35
在宅看護	2	5	7	8	6	13	4	8	5	58

表2 生活習慣・健康に関する研究テーマ別にみた経年変化

テーマの分類 / 年度	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	計
ライフサイクル別に見た生活習慣に関する研究										15
生活習慣の実態		1	2	2	1		1		2	9
生活習慣の確立					2					2
生活習慣病の危険因子						3			1	4
健康の捉え方・あり方に関する研究										20
健康観・健康意識とその変化			1	2	2	2	1			8
健康問題と健康指導				1		1	1			3
保健行動と健康管理		1		1	1	1	1	3	1	9

表3 経年別にみた地域看護学領域における調査方法の動向

	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	合計
事例研究			1	3		1				5
文献研究					1	1				2
アンケート調査		3	5	7	6	6	5	4	5	41
面接・半構成調査	1	1	2	3	4	8	1	5	4	29
参加観察法		1		1		1				3
聞き取り調査			1		1	3	2	2		9
訪問調査	1	2	1							4
合計	2	7	10	14	12	20	8	11	9	93

表4 生活習慣・健康に関する研究の経年数と調査方法

年度	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	計	合計
総数	0	2	3	6	6	7	4	3	4	35	35
調査方法											
文献研究						1				1	
調査研究		2	3	6	3	3	4	3	4	28	
半面接調査					3	1				4	
参加観察法						1				1	
聞き取り調査						1				1	
											35
調査対象											
小学生		1	1	2	2	1	1			8	
中学生				1	1					2	
高校生			1				1			2	
学生			1		1	1	1	3	2	9	
小児と保護者					1				2	3	
成人		1		2	1	4	1			9	
高齢者				1		1				2	
											35

一般学生と看護学生の喫煙に関する意識など比較を行うものも多い。看護専門職となる学生の意識や実態に焦点をあてることは、教師にとっても学生の健康と生活の関連性の中でひとりの生活者として捉えられ今後の生活指導に役立てることができる。

次に、成人を対象としたものでは、労働者の作業環境(DVT)や睡眠健康に関するものもあった。また、喫煙経験者や一般成人への健康意識調査などであった。地域看護の活動は、公衆衛生看護、学校看護、産業看護、訪

問看護の4つの場で行われており、地域看護学実習を展開している。産業看護の場も2001年度まで実施していたことから関心のひとつとなっているものと考えられる。

さらに、小学生を対象とした生活習慣に関する調査も多く、これも小学校という学校を実習の場として関わる中で、また養護教諭から健康課題の実態などの話を聴くことで関心のひとつとして高まったものと考えられる。また、地域看護学実習は、施設外での看護活動が中心であること、さらに健康な対象者がほとんどであ

ることなどを理解したうえで、必然的に健康について考えられることが望まれる。その視点をふまえて対象者の健康づくりのあり方や方法を考えることができ、広い視野で対象者を捉えることができることをねらいとしている。そして、対象者にとって継続性のある看護をどのように展開できるかを考え実践することができることという視点も重要である。

以上のように、研究対象はすべてのライフサイクルにある人々を対象にしており、調査場所も広範囲にわたっていた。近年は、個人情報保護法などによりアンケート調査の受入れも難しくなりつつある。しかし、多くの協力のもと実施できている状況である。今後は、研究動機についても検討し教育方法を検討すること、さらに調査研究をはじめすべての研究方法において、どのように対象者を選択しどのように同意を得ているのかを調査し看護研究をより継続していくために必要な手順や方法を検討していきたいと考える。

おわりに

学生の地域看護学領域に関する研究の動向から、その時代や社会で関心のもたれている内容を取り上げるなど社会背景を反映したテーマに関心をもっていた。そして、看護の対象となる「健康」について関心をもつことは重要なことである。そこから波及するさまざまな要因や影響など、そして時代や社会情勢により関心を高めていく姿勢を持ち続けるための、指導上の課題が示唆された。

引用文献

- 1) 松本幸子, 金山時恵, 木下香織他: 新見女子短期大学における看護研究の動向, 新見女子短期大学紀要, 18, 93-100, 1997.

Trends in graduation studies in the area of community nursing: A review of studies on lifestyles and health

Tokie KANAYAMA

Summary

This study aimed to clarify changes in students' research themes and interest in the area of community nursing from their nursing studies over the past 9 years, and obtain suggestions for improvements in education. Of 562 graduation theses written by students in our department during the period of 1999 to 2007, 93 addressed issues in the area of community nursing. The study themes were roughly classified into two categories: "lifestyles and health" and "home nursing." The former category, consisting of 6 subcategories, largely involved two types of study: 15 "studies on lifestyles in light of the life cycle" and 20 "studies on attitudes toward health and how it should be." These studies targeted people at all stages of life, and covered an extensive geographic area. They had themes reflecting the social background, addressing issues that attracted interest from society at the time. It is important to develop an interest in "health," the subject central to nursing. We hope that our students will maintain an attitude to further their interest in its various factors and effects in the context of the times and social conditions.

Keywords: health, lifestyle, community nursing